

G1フェブラリーステークス

<最終見解>

本命はミックファイア

当レースは父も母父も非サンデー系&父か母父米国型が5連覇中。
この配合パターンに該当する馬が2年連続で1、2着。

父シニスターミニスターは米国型種牡馬。
当レースで複数回馬券になったインカンテーションの父でもあります。

母父はブライアンズタイム。同種牡馬の産駒に同じNAR所属のフリオーソ。
同馬も当レースで連対。母父ブライアンズタイムには当レース勝ち馬エスポワールシチー。
連対馬のブルーコンコルド。母のマリアージュは同コースの2勝クラス勝ち馬。

前走の東京大賞典はレース前の予想でも危険な人気馬に指名。

その理由は、路盤がオーストラリアの白い砂に替わったから。
この路盤で2000mだと米国血統は止まってしまいます。
特にスピードを武器にする馬は減速幅が大きいです。
(物理構造上スピードとスタミナ&パワーは相反するため)

この負け方は、フェブラリーS ではポジティブ要因。
相反するスピード馬である可能性を秘めるからです。

先に書いたように血統的には東京の砂 1600m の方が向きますので一変も期待できます。

前走逃げた馬も 1 頭しかいないメンバー構成。
すんなり先行してしまえば、展開も恵まれる可能性は高いです。

ドゥラエレーデは昨年 1、2 着のキングマンボ系。
追走ペースが緩く先行有利の展開になるのも買い材料。

レッドルゼルは昨年だけ走ってしまえば馬券圏内濃厚のメンバー。

以下、ウィルソンテソーロ、ガイアフォース。

G3小倉大賞典

<最終見解>

当レースは父か母父ディープインパクトが好成績。
良血の小回り巧者や非根幹距離巧者が走りやすい。

本命はアルナシーム。

全5勝中4勝が非根幹距離。典型的な非根幹距離巧者。

前走は外枠と根幹距離が敗因。

母の全弟には芝中距離G1馬が複数いる良血。
底を見せていない。

相手も前に行く15 ホウオウアマゾン、8 フェーングロツテン、9 セルバーグ。
父か母父ディープの12 エピファニー、6 アドマイヤビルゴ。